

会 誌

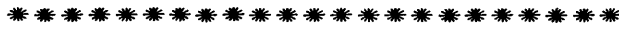


第 25 号

平成元年度

全国造船教育研究会

会 誌

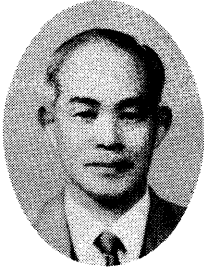


第 25 号

平成元年度

全国造船教育研究会

巻 頭 言



会 長 増 井 一 雄

私は、本年四月から、三重県立伊勢工業高校々長に着任した者でございます。本年は、当校が事務局との事で、前高橋校長の後を受けて当研究会の会長を務めさせて頂く事となりました。会員の皆様様の工業教育に対する高い識見と蓄積された貴重なご経験を生かされました格別のお力添えを戴き、この伝統ある会の運営と発展に努力いたしたいと存じます。現在、我々をとりまく情勢は誠に厳しいものがあります。今更言うまでもなく、時代は高度情報化社会であり、産業経済も激変し産業構造も就業構造もかなりの変化が見られます。工業技術も高度先端技術の時代に突入り、技術領域も広範囲化し、高度化の方向へ進展しつつあります。工業技術と工業知識は、より総合的分野に、より専門的分野に、更に熟練と経験を要する分野にと分極化しつつあります。その選択には苦慮する事態があり、我々工業高校教育も好むと好まざるにかかわらず、そのあり方についても、様々な改革や改善を迫られている現状と思えます。この改革の波に対して、我々も新たな決意とビジョンをもって、新しい時代に対処してゆかねばと存じます。一方、中学生並びにその親の根強い普通科志向の中で、S62、63年を頂点として生徒数の急減期に入っていきます。はたまた、生長を続ける専修学校の人気上昇等に諸環境を考えれば、この競合、相関関係から現状見なおしは当然の課題と受けとめられます。今後、特色と魅力と活力ある学校作りに努力しないと、立ちおくれ更には脱落の危機は必至と判断されます。いずれにしてもこれからの工業教育の形や内容、あり方は検討を要する時期と存じます。学校や学科に特色をもたしめることも大切ですが、私は、むしろ学科と言うワクを越えて、現代の企業の人材育成の理念に学び、この時代に即応していける人材育成こそが重要な使命かと思えます。

今のように急激に変動していく時代や社会では、柔軟に対応していく能力が必要と存じます。従って、基礎的・基本的事項をおさえつつ、応用力を持たしめ、発想力と新しいセンスを持ち、自ら主体的に学ぶ意志と態度・能力を持つ人材を養うことが肝要かと思えます。更に大切なことは、職業に対する情熱と意欲をもつ個性豊かな人材の養成と思えます。

これからの工業教育は、新しい技術の習得と言うハード面とともに人材養成と言うソフト面が、各校とも対処すべきことと思えます。

私どものこの会は、全国的組織を持つ会としては、いささか小規模です。しかし、マイナーイズ ベストであり、むしろ、最適規模と思えます。研究会やこの会誌を通して、共に励ましあい、協力しあって、日頃の研究成果の発表と意見の交換を行い、お互いの研鑽と親睦をはかっていきたいと念願致しております。最後になりましたが、私共のこの研究会のために物心両面にわたって、惜しみなく、ご援助を戴く、日本造船工業会並びに、造船各社のご芳志に対しまして、この紙面をかりて深く感謝致しますとともに、今後一層のお力添えを、切にお願い致します。

目 次

巻 頭 言	会 長
思いだすままに (Ⅲ)	1
淀の川船, 今と昔	5
学 校 一 覧	13
平成元年3月卒業生進路状況	14
会 の あ ゆ み	15
会 則	19
教育課程および名簿	21
編 集 後 記	34

思いだすままに（Ⅲ）

元木江工業高等学校教諭 田村清典

会誌24号で、データー整理を取入れた設計の授業についての思い出を誌した。授業のほかにクラブ活動でも同様のことを度々行なった。木江では大崎高校としての発足当初、生徒会に海洋部が生まれ、水泳・漕艇・セーリング・工作のほかに理論研究班が設けられ、後木江工高になるに及んで設計製図班に受継がれた。このクラブで隔年毎に船の種類をきめてそのデーターを集め、平均線を描いたり近似式を求めたりした。またそれを基に与えられた条件に適した船の要目を求める早見表を作ったりした。データーは卒業生が全国に散在しているので、それぞれに依頼して入手し、班員はそれを大判のグラフ用紙に置点して行き、最後に平均線を描く。隔年何十枚かの図表が出来上がり、なかにはちょっと拝借と授業に持って行かれる先生もいた。

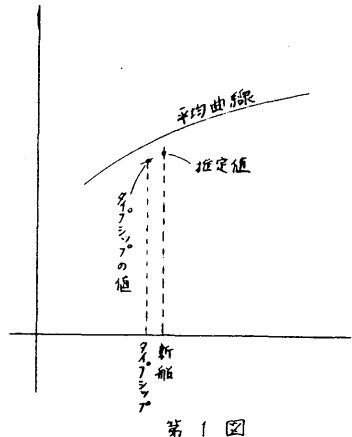
このような平均線または式が出来ると、その数値をそのまま使いたがるのが普通である。既成船の実績の平均だから大きな見当違いはないかもしれないが、それらの数値が最適あるいは最良値だとは断言できない。良いタイプシップの手持ちがあれば、第1図のように、タイプシップの置点から平均曲線に平行線をひいて新船の縦線との交点の値を読めば、それが一番適切な推定値となる。ここらがエンジニアのエンジニアたるところであろう。

平均線を得るためには、データーは多めに越したことはない。しかし多きを求めて余り古いものの上に新しいのを積重ねて行くのは考えものである。極端なことを言えば、戦前のデーターに戦後のものを併せて平均線を引いても意味がないことが多い。時代の推移につれて技術も変化する。従ってデーターの傾向も変わり平均曲線も変わってくる。

簡単な例として、余り変化がないだろうと思える小型貨物船の長さ L と幅 B の関係図をとってみよう。この関係は L と B 、または L と L/B のグラフで表すのが普通だが、ここでは簡単な L と B のグラフの方を挙げてみる。小型とは言ったが、はっきりわかるように、 L を延ばして $L 100$ m以下の鋼製小型貨物船の L と B のグラフの平均線を幾つか第2図に記入してみた。中には全造教の教科書に $L < 160$ mのときによくあてはまるといわれていると書かれたものもはいつている。

図中の(A), (B), (C)でわかるように、時代とともに B が増加しており、最も新しい(C)では、 L が $100 \sim 70$ mで $L/B = 5.4$ という一定値をとり、 70 m以下になるとさらに減少してくる。戦前では考え及ばなかったところであろう。

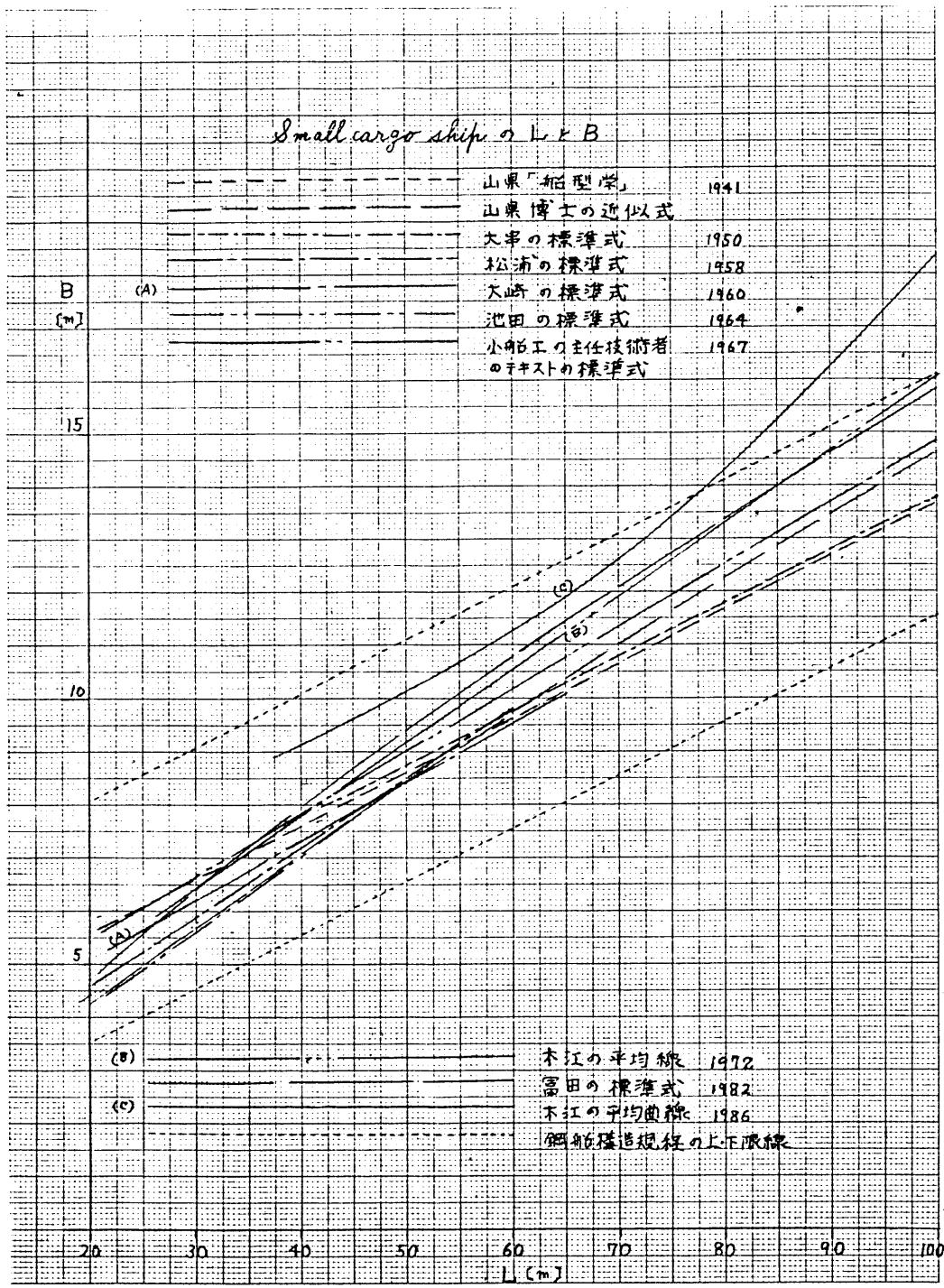
機帆船から小型鋼船に切換えられた初期の時代、木江を中心に 10 里の半径で円を描くと、その円内で全国の小型鋼船生産量の約 6 割が造られる言われた。木造船所から鋼造船所に切換えた大崎上下両島の造船所に呼掛けて、大崎造船懇話会なる研究団体を作ったが、その時の発起人の



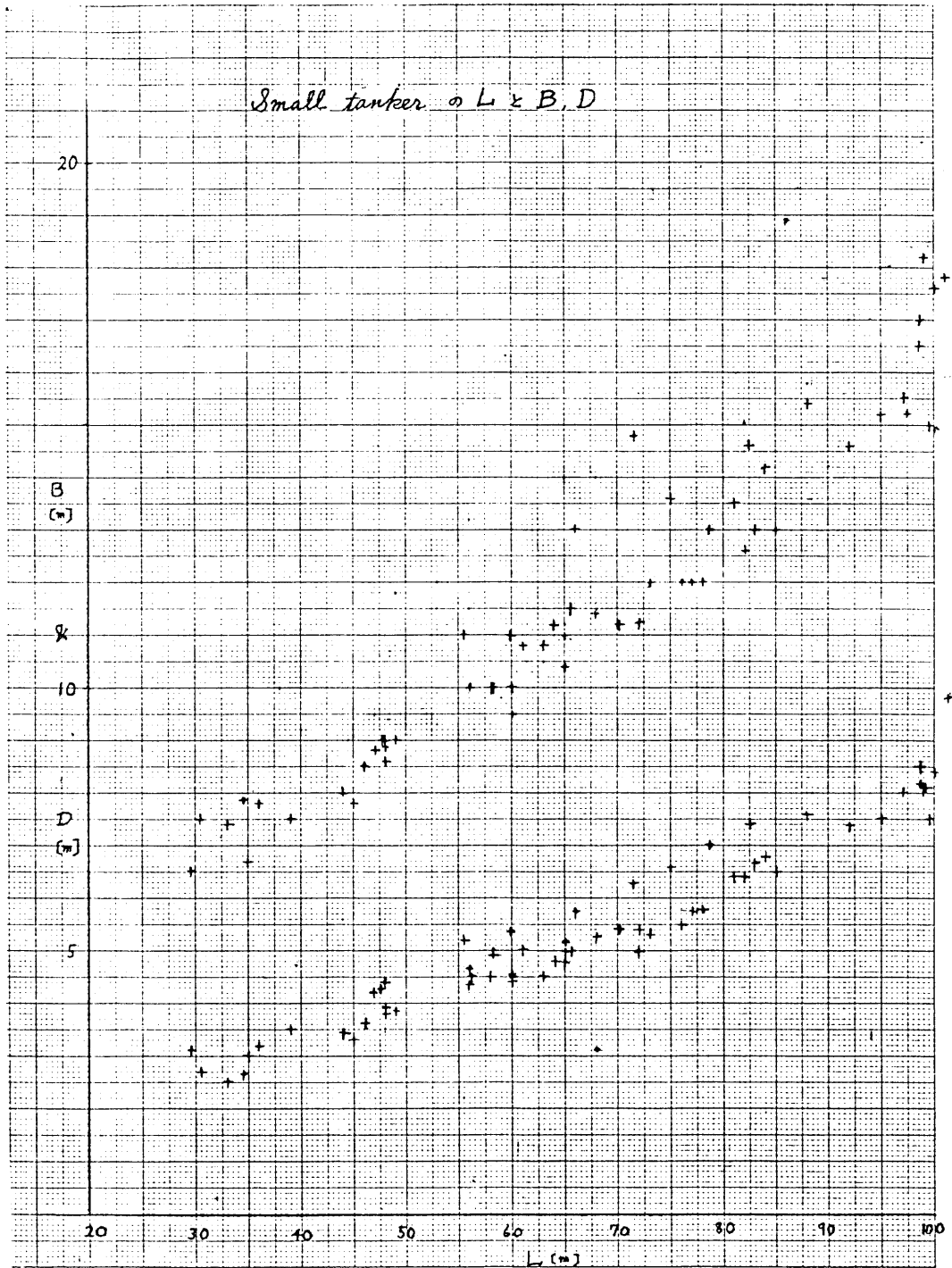
1人である松浦弘氏の式も図中に入れておいた。これは氏が多年に亘って集めたデータの平均線ではなく、それよりも少し高めにした式で、これは大正年間から小型鋼船を造っていた同氏の造船所における多年の実績からでた標準式と思われる。しかし時代の推移は氏の推理を越えて、船の幅を広げてしまった。

また広島市を中心に瀬戸内西部地区で、中国海運局の中村・広島大学の川上両先輩らと提唱した小型船研究会も1960年には発足した。これは後に中小型船研究会と変わったが、この会が取組んだ幅広船の推進・操縦性に関する研究では、 L/B が6.00, 5.50, 5.00と更にその上に4.50の模型船による実験が行なわれた。今第2図を見ると、(C)曲線の L/B は5.40以下であり、曲線を描くために集めたデータの中には、4.00を切るものも幾つかあった。当時の小型船研究会のメンバーもそこまでは考え及ばなかったことを思う時、大崎造船懇話会も中小型船研究会も今は無く、松浦・川上両氏ともに逝き、中村氏も私も隠退し、昭和も去って、時代の変遷を痛感する。祈る、全造数よ健在であれ。

付記 第3図は(C)と同時期建造の小型タンカーのものですが、(C)に比べてデータ数が少ないので、平均線を引いていません。皆さんでデータを加えて完成して下さい。



第2図



第 3 図

淀の川船，今と昔

大阪大学工学部造船学科 多田納久 義

1. 序

かつて京都と大阪を結ぶ交通ならびに運輸の幹線であった淀川には大小様々な船が活躍していたのである。中でも客船としての30石船は長さ56尺(約17m)，幅8尺3寸(約2.5m)，乗客定員は28～30名だったと言われており，それほど大きい船ではないが浪曲や落語を通して現代にまで語り継がれる程有名であった。この船は大阪を早朝に出て夕方京都の伏見に着き，伏見からは夜出て翌朝大阪に帰り着くのが一般的だったようである。徳川時代の末期，文政元年に出版された挿絵入りの旅行案内記『澁川兩岸一覽』に描かれた船着場や船宿は大賑いであり，上り下りの船も数多い。そうしてまた船頭や旅客，さらには店で働く人々までも生き生きと楽しそうである。ある時代考証の専門家によれば庶民にとって江戸時代は案外暮らしやすい，いい時代だったらしいから，京大阪の間をゆったりと船で上り下りするのは，長い旅路の中でも思い出に残る一日だったに違いない。

この澁川30石船の旅を現代に再び取り戻そうと努力しておられるのが京都市伏見区観月橋畔で『月見館』という温泉旅館を経営しておられる南忠春さんである。先代から引き継がれた川船による遊覧を発展させ，現代風の新しい高速船を次々と建造して30石船と呼び，『30石船』と尋ねれば『月見館』と答えるほど有名になっている。南さんはこのような新しい30石船を作るにあたって外観をやや古風にして昔の面影を残し，推進機には船外機或いはウォータージェットを備え，20数ノットの高速で航行出来るように改められたのである。

しかしこのような現代の30石船は早く走ることだけが取り柄ではない。時間に余裕のある場合には船を岸にもやい，船を降りて三々五々河原を散策し，春の緑を愛でることも出来るし，夏には涼風を求めてゆったりと川を下り，秋には観月としゃれるのも趣があってよいものである。最近はまだ寒い冬に暖かい鍋物を囲みながら川を下るという趣向に人気があり，南さんは年中忙しいと嬉しい悲鳴をあげておられるのである。このように忙しい毎日なのに絵の上手な，最愛の田鶴子夫人に『澁川兩岸一覽』の主要な木版画を大層きれいに彩色してもらい，自らは解説を入れて写真製版の上出版して配布する。さらに縮尺1/10の30石船の模型にも夫人の作られた紙人形の船頭やお客を載せて玄関を飾る，庭先に展示場を作って古い20石船を保存するなど，南さんの淀の川船に対する熱の入れようは大変なものである。

今回はこれら新しい30石船の一例と古い20石船について述べたいと思う。

2. 現代の30石船

月見館の南側は宇治川であり，ここに極く小さな釣り舟から広い客室を持つ無動力船，これを曳く曳船，そうして現代風30石船など随分多くの船がもやっており，需要に応じてどんな船でも出すことが出来る。その中に第一天神丸と呼ばれる30石船がある。写真1に示したこ

の船は、昭和62年春に進水したもので、平底型の主船体に古風な作りの屋形を設け、船首右舷に操舵室、同中央に甲板からの主出入口がある。中央部分の広い客室はエアコンディショナー付だから四季を通じての快適な船旅が保証されている。客室の左後方にはこの船に不似合わないほどのゆったりした便所が設けてあるから、本来の目的の外、酒席でやや崩れた着物の身づくろいをすることも出来、御婦人には特に好評のようである。船尾は機関室となっており、主機関として三菱重工(株)のS6MB-MTK型、出力275PSのもの、推進機としてのウォータージェットは住吉重工(株)のIHJF-25/2S型をそれぞれ2基づつ備えている。このような大型のエンジンをもつ高速船は、騒音や振動がさぞかし大きかろうと思われるであろうが実際に乗ってみると意外に静かで気にならない。規則による旅客定員は49名だが実際には30名以下で営業されるから船内は十分ゆとりがある。図1に線図並びに主要寸法を、図2に一般配置図をそれぞれ示す。

この船は福井県小浜市にある小浜ドック(株)で建造されたFRP船であり、完成時には当然のことながら試運転が行われたのであるが、あいにくの悪天候で波が高く、16ノットの速力に達するのがやっとであった。そこで京都に搬入された後、宇治川下流の京阪電車の鉄橋と御幸橋の間、604mの区間を往復して図3に示すような主機関回転数と速力の関係が得られた。この実船の試運転状態に合わせて実施した1/20の縮尺模型による抵抗試験の結果が図4である。横軸にフルード数と実船相当の速力を取り、縦軸に剰余抵抗係数、 C_R を示している。この場合、摩擦抵抗係数、 C_F は世界試験水漕会議、ITTCが提案した図中の式によって計算している。式中、 Re はレイノルズ数で、静水中の船の喫水線長さ L と模型船の曳航速力 V の積を水の動粘性係数 ν で除したものである。こうして得られた C_R と全抵抗係数 C_T との差が剰余抵抗係数 C であり、図中に丸印で示している。フルード数0.4あたりで C_R が最大となっているが、これはラストハンプとよばれるものであり、これ以上の高速域では剰余抵抗係数がフルード数の増加とともに減少している。図3に示した実線はこの模型試験結果から推定される有効馬力、EHPであり、点線はこのEHPを3倍して実船のBHPにあうようにしたものである。実船の抵抗推定にあたっては先に示した剰余抵抗係数をそのまま利用し、表面粗度修正係数 $\Delta C_F = 0.0002$ と仮定している。3 x EHPとBHPが高速域でほぼ合っているが、これが妥当なものかどうかは資料がなくはっきりしないので断定的なことは言えないが、今後このような川船の推進性能を推定する場合には参考にならうかと思われる。なお、BHPは主機関の陸上試運転結果で得られた2,685mm, 275BHPを基本とし、出力は回転数の3乗に比例するものとの仮定で算出している。

今回使用した模型船は著者の手になる発泡ウレタン製のものであるから製作精度の方はいまひとつである。素人は特にチェーンの部分が奇麗に仕上がらない。乱流促進装置としてはSS8にスタッドを10mm間隔、2mm高さに打ったが、これは船首部分から発生するスプレイを阻害するという説もあるので、打たなかった方がよかったかも知れない。模型の曳航点の上下位置についても諸説があって困るような現状である。プロペラ軸の方向に曳くべきだと言うのが大勢のようだけれども、小型船ではその角度が大きき、プロペラの推力は必ずしも軸方向に発生

しているとは限らない。そうしてまた船外機のような場合には船底下方をほぼ水平に曳かねばならないが、実際問題としては無理である。この問題に対し著者は適当なところを水平に曳く主義である。今回の模型も舷側線より上、中央付近を水平に曳いたのであるが、曳航時の模型船の姿勢も実船と全く同じように感じたので自分としてはこれら一連の試験結果に満足している。

3. 20石船について

序文で述べたように月見館には昭和30年代前半に作られた30石船よりやや小さい20石船が大切に保存されており、何時でも見せてもらうことが出来る。勿論これは昭和の20石船であり昔の船ではない。しかしながらこの種の川船は徳川時代から明治、それから昭和に至るまで変っていないようである。それは『澗川兩岸一覽』の挿絵や広重の絵に見られる船の形が、月見館に保存中のものと殆ど同じであることから解るのである。著者は特にお願いしてこの船の実測をさせていただき、1/10縮尺模型による抵抗試験、更にはこの船が淀川を帆走する状態の推定等を行ったのでここにまとめて御高覧に供したい。

図5および6にこの20石船の主要寸法と船首尾構造を示す。船殻重量は構造から推定し、空船ならびに米20石を積載した状態は表1に掲げたようなものではなかったかと想像される。ここに前後喫水は等しいものとしている。図7は1/10縮尺模型の満載状態における抵抗試験結果である。全抵抗係数 C_T 、摩擦抵抗係数 C_F 、剰余抵抗係数 C_R 等についてはさきの第一天神丸の場合と同じ表現である。本模型船の場合、抵抗は7~50gと非常に小さいが、そのわりにはまともな結果が得られたようである。特に低速域では乱流促進装置としてのスタッドを打っていて得られたようである。特に低速域で乱流促進装置としてのスタッドを打っていても C_T が C_F と同じ位になることが多いのに、本例では実測点が多少バラつくもののフルード数の全域にわたってほぼ同じ C が得られている。いわゆる3次元解析を行い、フルード数が0.10あたりでフォームファクター、 K を求めてみると0.28となる。実船の抵抗推定に際しては剰余抵抗係数 $C_R = 1.6 \times 10^{-3}$ 一定とし、 $\Delta C_F = 0.0005$ と仮定している。図8はこうして得られた20石船の船速と抵抗の関係である。一方、この船の帆の形状については古い写真等から5反帆、幅3.75m、高さを7.5m、真追手の場合の推力係数は1.2と仮定した。さらに淀川の流速については枚方市における昭和62年の平均が0.7m/sと得られているので、これより上流ではより早く、下流では遅いことになる。

図9にこの船の定常帆走性能の推定結果を示す。図の横軸は真風速、縦軸は船の対地速度である。ここに船速と風速の関係が線形で表わされるのは船の抵抗がほぼ船速の2乗に、帆の推力も風速の2乗に比例するからである。この結果でみると淀川の流速零の場合、真風速の34%の船速が得られ、流速0.5m/sの流れに逆らって上る場合、真風速4m/sにおいて約1m/sの、さらに真風速が8m/sならば1m/sの流れがあっても2m/sの船速が得られる。では一体この淀川ではどんな風が吹くのであろうか。図10は枚方市桜町にある建設省淀川工事事務所計測された風速記録を筆者が解析して南西風の発生率を求めたものである。ここに

南西風は淀川を逆のぼる船に対してほぼ追手になる風であり、発生率はこの風の吹送時間を総計測時間の百分率で示したものである。この結果を見ると昭和62年6月から7月にかけて風が弱く、2～4 m/sの風の発生率がやっと6%であり、この方向の風が強いと思われる同年12月から翌63年1月の1ヵ月間でさえも有効な風の総発生率が20%程にすぎない。勿論これは最近の一例であって、昔もこうだったとは言えないけれども、徳川時代には南西風がもっとよく吹いていたわけでもなかろう。きっとこの例と似たような気象であったに違いない。そうすると20石船や30石船が帆をあげて快適な上りを楽しめたのは年間を通じても数える程の日数、1週間から10日位しかなかったのではなかろうかと想像される。あとはわずかな追風に応じて船頭たちは帆をこまめに上げたり下げたりし、どうにもならない時は船のほぼ中央に立てた低いマストの上からとった細いしよろ縄を、えっちらえっちらと曳いて淀川堤を上って行ったことであろう。

謝 辞

この小文をまとめるにあたり、月見館々主、南 忠春さんには第一天神丸の試運転の実施から20石船の実測までお世話になり、種々御教示を賜った。また建設省淀川工事事務所、建設技官、西田正明氏にはお忙しいところ、風向風速や流速の資料の提供を頂いた。さらに精華町からは帆かけ船の資料を送って頂いた。ここに記して厚くお礼を申し上げる次第であります。

参考文献

- 1) 『TV時代劇の嘘を叱る』、時代考証家 稲垣史生、『貯金の話題』1989年4月号、郵便貯金振興会発行
- 2) 『淀川兩岸一覽』、1861年(文久元年)上り船、下り船各上下、計4冊の彩色簡略版、昭和63年5月、南忠春刊
- 3) 『写真で見る暮らしと風景』、京都府相楽群精華町刊、1987年3月
- 4) 『東南アジアの帆船模型の試験結果について』多田納久義、風洞、No.5 1987

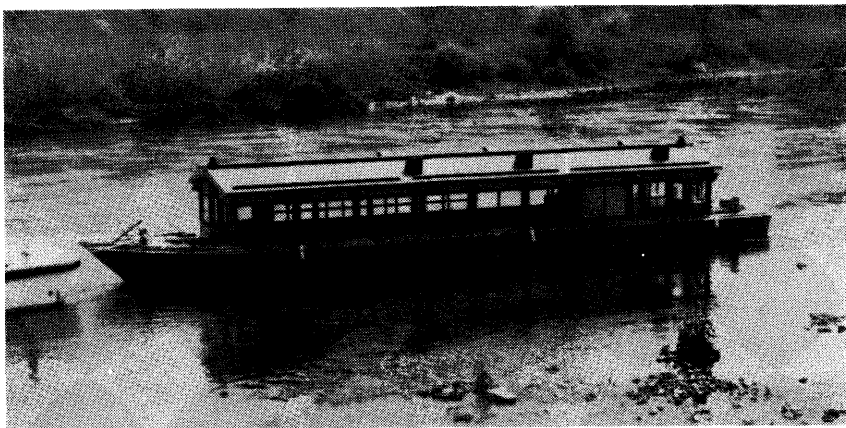
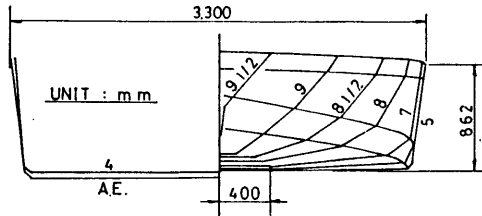
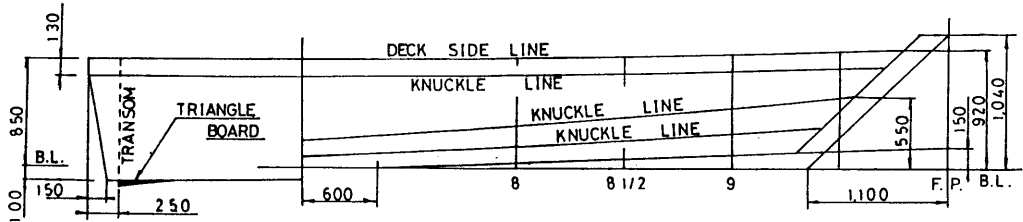


写真1

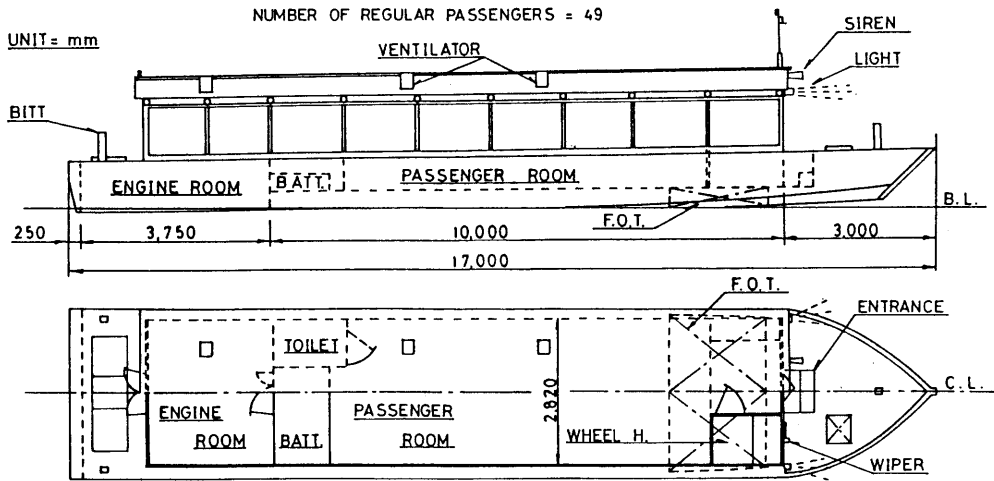


TENJINMARU No. 1

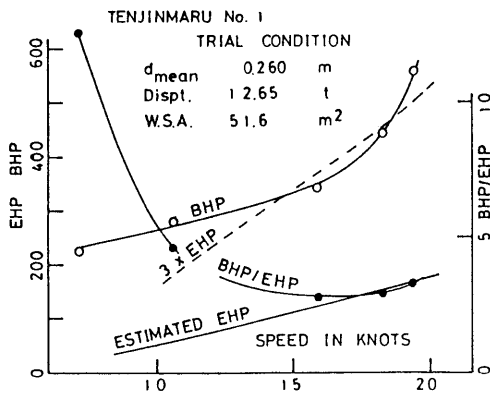
L_{oa} 17.000 m
 B_{max} 3.300 m
 D 0.862 m



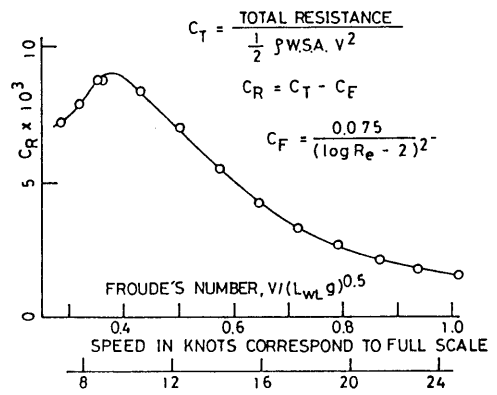
⊠ 1



⊠ 2

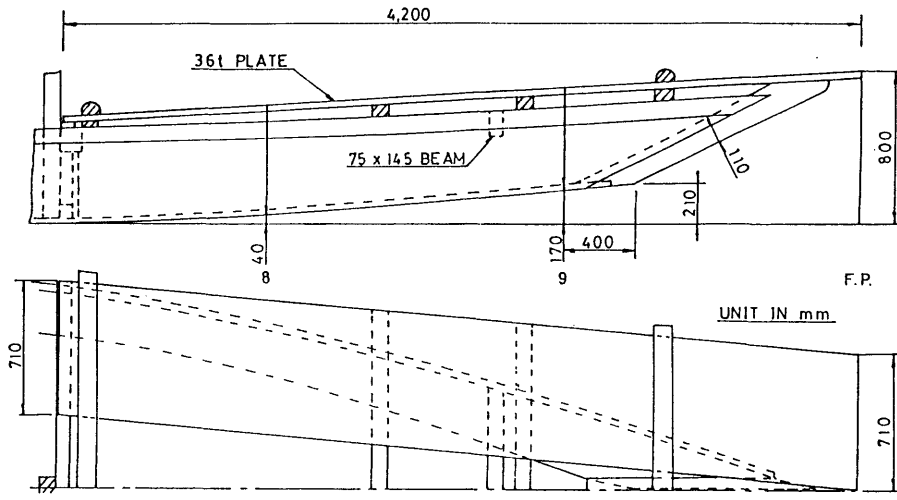


⊠ 3

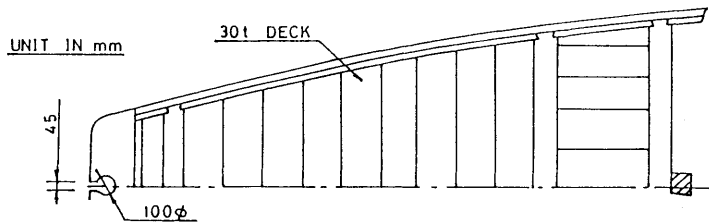
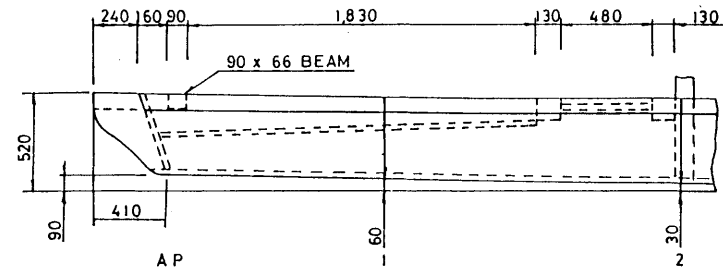


⊠ 4

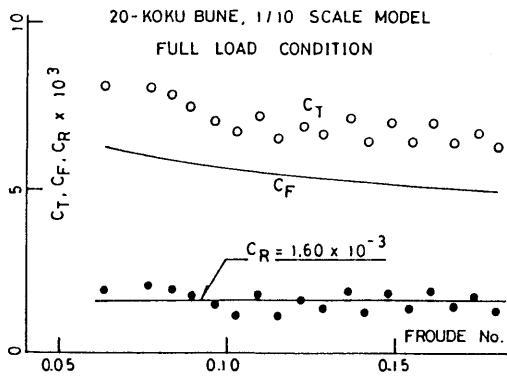
$$L_{\text{oa}} \times B_{\text{max}} \times D = 15.60 \text{ m} \times 2.30 \text{ m} \times 0.47 \text{ m}$$



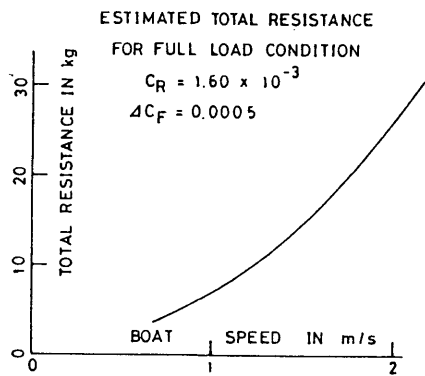
☒ 5



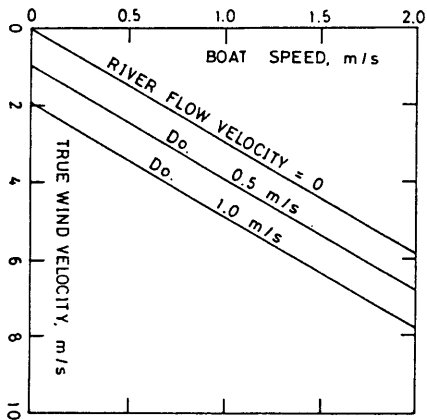
☒ 6



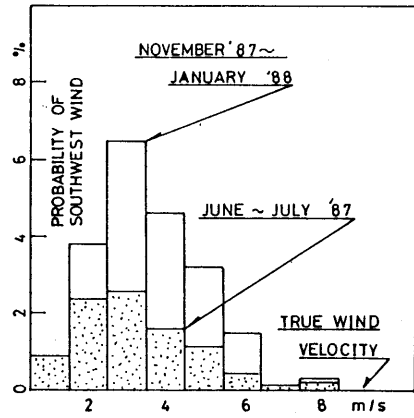
☒ 7



☒ 8



☒ 9



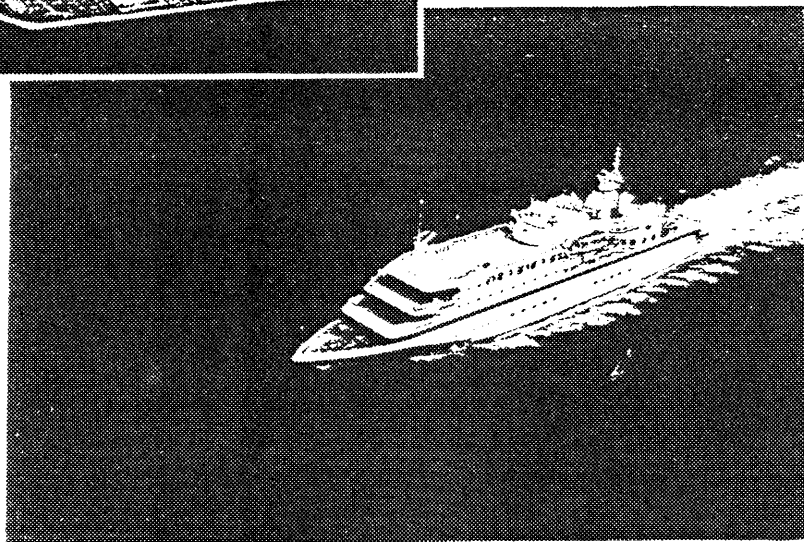
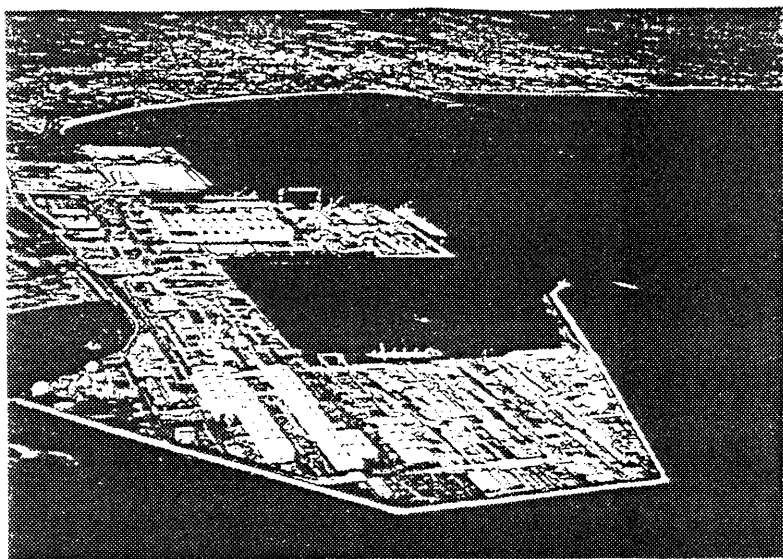
☒ 10

CONDITION	DRAFT m	DISPT. t	C_B	W.S.A. m^2
BALLAST	0.095	1.60	0.47	22.5
FULL LOAD	0.230	4.70	0.57	27.0

C_B : DISPT. VOLUME / $L_{oa} \times B_{max} \times d$
 W.S.A. : WETTED SURFACE AREA (WITHOUT RUDDER)
 RICE 20 KOKU : 3.00 t

表 1

360°に多感です。



NKK

日本鋼管株式会社
津製作所

〒514-03 津市雲出鋼管町1番地

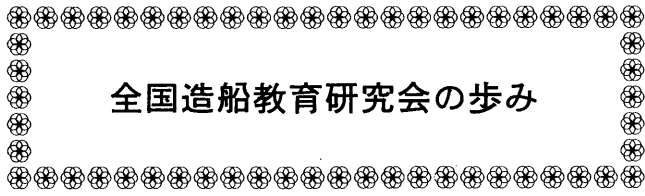
学 校 一 覧

学 校 一 覧

区分	校 名	〒	所 在 地	電 話	校 長 名	科 長 名
東 部	北海道小樽工業 高等学校	047	小樽市最上 1丁目29番1号	(0134) 23-6105(代)	酒井 武	則友 進
	岩手県立釜石 工業高等学校	026	釜石市大平町 3丁目2番1号	(0193) 22-3029	高橋 司男	田村 孟
	神奈川県立横須賀 工業高等学校	238	横須賀市公郷町 4丁目10番地	(0468) 51-2122	宮本 信哉	藤田 倫也
	三重県立伊勢 工業高等学校	516	伊勢市神久 2丁目7番18号	(0596) 23-2234	増井 一雄	石川 昌文
中 部	神戸市立神戸 工業高等学校	654 -01	神戸市須磨区西落 合1丁目1番5号	(078) 792-5095	池田 稔	上田 民平
	徳島県立徳島東 工業高等学校	770	徳島市大和町 2丁目2番15号	(0886) 53-3274	西村 榮	川村 卓
	高知県立須崎 工業高等学校	785	須崎市多ノ郷和佐 田中甲4167-3	(0889) 42-1861	森岡 清	津野 隆
西 部	島根県立松江 工業高等学校	690	松江市古志原町 500	(0852) 21-4164	高橋 肇	荒瀬 清彦
	広島県立木江 工業高等学校	725 -04	豊田郡木江町 大字沖浦1980-1	(08466) 2-0055	原田 高明	連絡係 長岡 武男
	山口県立下関中央 工業高等学校	751	下関市後田町 4丁目25番1号	(0832) 23-4117	阿部 隆郎	楨 武俊
	長崎県立長崎 工業高等学校	852	長崎市岩屋町 637番地	(0958) 56-0115	坂田 正義	三島 康男

平成元年 3 月卒業生徒進路状況

項目		学校											計	
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K		
就 職	造 船	技 術 職					1	1			1	3		6
		技 能 職	1	2		1		1			1	1	3	10
	設 計	事 務 所	1		1							2	4	
	鉄 工	所	2			1	1		10	2			16	
	機 械 製 造		4	8	8	3	1	5	95	5	6	1	133	
	車 輛 製 造				4	3		1	6		2	14	8	38
	車 輛 整 備		3			3	3		3	1			1	14
	車 輛 販 売				1									1
	建 設	業	1	5			2		9	1	1			19
	運 輸			1	2		5	2				2		12
	電 氣 機 器		3			3	5		5			1		17
	化 学 工 業					5	1	4	3					13
	木 工		2					2						4
	印 刷		5				2	1	2	3			2	15
	製 陶							1						1
	自 営				2		1					3		6
	食 品 織	維	5	1		4	2	3	5			1		21
						1			5	2				8
	公 務 員	技 術 職												
		一 般 職							2					2
	警 察 自 衛 官		1					4	1	1	1		8	
サ ー ビ ス 業		8	1	6	4	2	4	9	4	2	2	3	41	
そ の 他		1		4	1	4	1	14	1				26	
	計	36	19	28	29	30	26	172	20	14	28	20	421	
進 学	大 学	理 工 系				2		2	6	2		3	6	21
		文 科 系	1						3			1		5
	短 大	理 工 系							6				1	7
		文 科 系												
	専 門 校	電 子 技 術		1		2		3	6	5	1	3	6	27
		自 動 車 整 備				1			1	2			2	6
		職 訓			1			1	1	1	1			5
		デ ザ イン				1		3		1				5
		簿 記					1	1						2
		放 送												
		理 美 容							3		1			4
		写 真										1		1
		建 設												
調 理		1	1				1					3		
園 芸														
外 語														
そ の 他		1	1	3		2	3						10	
	計	1	3	3	9		12	30	11	3	9	15	96	
そ の 他				1								3	17	
	計	37	22	31	38	31	38	215	31	17	36	38	534	



全国造船教育研究会の歩み

昭和34年～昭和62年4月まで省略

会 の あ ゆ み

年月日	事	項
昭和43・6	中国五県工業教育研究集会の機械部会に造船分科会を特設することになる。	
	幹旋校 山口県立幡生工業高校（校長 岡本喜作，造船科長 高橋正治）	
43・8・21	中国五県工業教育研究集会 於山口県立宇部工業高校，林兼造船所クラブ	
～24	参加 14校	
	(1) 全国工業高等学校造船教育研究会（仮称）の発表	
	(2) 昭和43年度会長 松井 弘（市立神戸工業高等学校長）	
	〃 市立神戸工業高等学校	
45・3・41	第1回総会 於神戸市垂水 教育研修場臨海荘	
～4・1	13校 25名出席	

中 間 省 略

- 62・8・1 会誌24号発行（200部）
- 8・6 役員会 於国民宿舎「きのえ」
1. 総会提出案件の検討
 2. 総会並びに研究協議会の運営について
 3. 次期役員・当番校の決定について・その他
- 8・7 第29回総会並びに研究協議会
- ～8 於国民宿舎「きのえ」 広島県立木江工業高等学校
当番校・広島県立木江工業高等学校
来 賓・広島県教育委員会 日高敬司指導室係長
広島県産業教育振興会 近藤章夫理事長
参加校・11校 24名
- ◎開会式・総会（8：40～10：40）
- 議事（議長 当番校 幸元敏幸教頭）
1. 昭和61年度事業報告
 2. 昭和61年度会計報告・同監査報告
 3. 昭和62年度役員・総会・研究協議会 当番校の選出
 4. 昭和62年度事業計画・会計予算案審議
- ◎研究協議会（10：40～17：00）
1. 実習指導書の各校の実状について（司会 小樽工 中原博幸）
 2. 各校提出議題

- イ 造船科卒業生の就職と実態 (司会 伊勢工 土屋末男)
- ロ 造船科の将来 (")
- ハ 造船科の現況と教育課程の改正について (司会 徳島東工 川村 卓)
- ニ 統廃合や転科にともなう今後の取組み (")
- ホ 造船不況下における専門教科の内容は如何にあるべきか
(司会 相生産 吉積次郎)

3. 会誌の発行について (司会 長崎工 三島康男)

4. 造船力学ワークブックⅢの報告 (木江工 竹内敏幸)

(以上の研究協議会の討議内容については昭和62年度第29回全国造船教育研究会総会並びに研究協議会会議録に記載)

◎閉会式 (8・8 8:40~9:40)

◎見学会 (10:00~12:00)

大三島大山祇神社, 宝物館, 海事博物館

64・1・14 役員会 於神戸六甲荘 出席者7名

~13 会長 池田 稔 徳島東工 川村 卓 長崎工 三島康男

伊勢工 景山裕二 木江工 竹内敏幸 神戸工 上野健治郎 上田民平

議事

1. 昭和62年度総会以降の各校の実状について

- ・各校とも造船科のおかれている厳しい状況が報告され次総会における議題の中心になることが考えられる。
- ・相生産業が64年3月をもって廃科となる。
- ・横須賀工が64年4月より電子機械科に科名変更される。
- ・神戸工が自動車・造船科に情報機械コースを設置する。

2. 昭和64年度総会並びに研究協議会の開催について

徳島東工 川村 卓先生より準備報告

日時 昭和64年8月1日(月)~8月3日(水)3日間

会場 徳島市共済組合「眉山会館」徳島県立徳島東工を主会場とする予定。

3. 研究協議題

- イ 各校の現状と今後の造船科のあり方について
- ロ 造船工学・造船力学の教科書の内容についての改正点
- ハ 工学の内容 (大単位の学科の内容を外部に向けて表す工夫) など
- ニ 各校より提起された問題点など

4. 昭和63年度総会 (当番校) について

昭和63年度総会開催校については担当依頼校が校内事情により開催不可能との実情あり, 又科の減少の中でブロック順の割当ての形態にも無理を生じて来ており, 決定に至らなかった。次期総会で今後の開催のありかた, 日程・内容

を含めて検討の上結論を出すことで了承。

5. 会計中間報告

6. 造船科に関するアンケート調査について

文案の検討 調査規模，発送の手順等について打合せ，事務局で集約し64年度総会で報告の予定で作業を進めることとする。

3 教材・ワークブック（造船力学，力学W・B I，計算W・B，NK鋼船規則）等の印刷 各校へ配布。

4・21 全国工業高等学校長協会へ，昭和62年度事業報告並びに昭和64年度事業計画書を提出。

5 造船科に関するアンケート，会員校を經由 全国企業に向け発送。

〃 会誌23号編集開始，関係方面へ原稿依頼。

6 兵庫県立相生産業高等学校 退会
広島県立因島北高等学校 退会

8・1 会誌23号発行（200部）

〃 役員会 於眉山会館

1. 総会提出案件の検討

2. 総会並びに研究協議会の運営について

3. 次期役員・当番校の決定について・その他

2 第40回総会並びに研究協議会

～3 於眉山会館 徳島県立徳島東工業高等学校

当番校・徳島県立徳島東工業高等学校

来 賓・徳島県教育委員会 指導課長 榊田 務

〃 指導主事 堀 博光

参加校・10校 23名

◎開会式・総会

議事（議長 当番校 教頭 益田宏一）

1. 昭和62年度事業報告

2. 昭和62年度会計報告・同監査報告

3. 昭和64年度役員・当番校の選出

神戸工業高等学校の内部事情により，会長池田 稔校長・事務局長上野健治郎先生の辞任，新会長として三重県立伊勢工業高等学校高橋 章校長の就任，事務局も同校に移ることで承任される。

4. 昭和64年度事業計画・会計予算案審議

◎研究協議会

1. 造船工学（教科書）の検討 （司会 長崎工 三島康男）

2. 62年度の進路状況について （司会 伊勢工 石川昌文）

3. 造船科に関するアンケートの結果報告（司会 神戸工 上野健治郎）
4. 造船科の現状と今後の取組みについて（司会 徳島東 川村 卓）
5. 各校提出議題について（司会 釜石工 田村 孟）

（以上の研究協議会の討議内容については昭和64年度第40回全国造船教育研究会総会並びに研究協議会記録に記載）

◎閉会式

◎見学会

大鳴門橋・霊山寺（四国88ヶ所1番札所）

元・1・14 役員会（於神戸六甲荘 出席者6名）

～13 1. 研究会規約の見直しについて

昨年の徳島大会において、次回からは当分の間2年ごとに総会をもつという決定がなされた。このことによって会運営上、規約を改正する必要があるのではないかということで検討した。次回役員会でもう一度検討し、総会にはかることになった。

2. 平成元年度事業計画について

8月に須崎工業高校を会場にして実技講習を行なう方向で検討していくことで了承される。内容は「FRP製小型船の設計および建造」（仮称）

3. 会誌の発行について

従来どうりの形式で発行する。

4. 力学ワークブックⅡの印刷について

5. その他

前会長・前事務局長に感謝状と記念品を贈る件について、事務局に一任される。

（以上 詳細は昭和64年度役員会報告に記載）

2・20 実技講習打合わせ（山崎・小松先生 伊勢工業高校に来校）

3 副教材各校へ発送

4・20 昭和64年度事業報告並びに平成元年度事業計画を全国工業高等学校長協会へ提出

5・2 実技講習案内・参加申込 各校へ発送

20 会誌25号 編集開始、関係方面へ原稿依頼

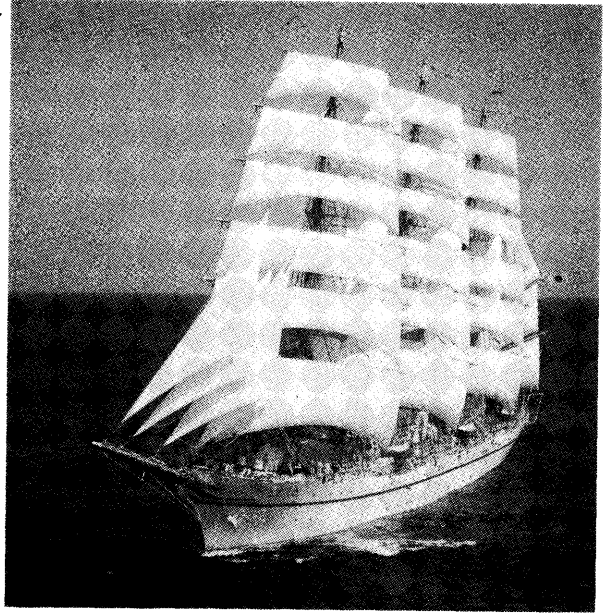
造船教育研究会規約

1. 本会は、全国造船教育研究会（以下本会という）と称する。
2. 本会は、特に造船教育に関して資料の収集，作成並びに研究をなし，造船教育の充実振興を図ることを目的とする。
3. 本会の会員はつぎのとおりとする。
 - (1) 造船科を設置する高等学校の校長・教頭並びに造船科教職員。
 - (2) 本会の主旨に賛同し総会で認められたもの。
4. 本会は次の役員をおく。
 - (1) 会 長 1名
 - (2) 理 事（事務局） 若干名（事務局長・理事）
 - (3) 委 員 若干名
 - (4) 監 事 2名
5. 役員の仕事は次の通りとする。
 - (1) 会 長 本会を代表し，会の運営にあたる。
 - (2) 理 事 会長を補佐し，庶務・会計の事務にあたる。
 - (3) 委 員 各地区間の連絡にあたり，会の活動運営をたすける。
 - (4) 監 事 会計の監査にあたる。
6. 役員は総会において選出する。
7. 役員の仕事は，1年とし再任を妨げない。
8. 本会には若干の顧問をおく。
9. 本会は次の集会を行う。
 - (1) 総 会 原則として毎年1回これを開く。
 - (2) 役員会 必要に応じて開く。
10. 本会の収入は，次による。
 - (1) 会 費 年額1校 7,000円
 - (2) 寄附金
 - (3) 雑収入
11. 本会の予算及び決算は，総会の承認を得るものとする。
12. 本会の年度は7月21日に始まり，翌年7月20日に終る。
13. 本会の規約の変更は，総会の決議による。

附 則 本規約は 昭和60年8月2日より施行する。

(注)昭和34年11月3日発会当時の規約を，昭和35年3月30日，昭和40年8月4日，昭和41年7月28日，昭和42年7月27日，昭和47年7月27日，昭和50年7月30日，昭和51年7月28日，昭和55年7月26日，昭和56年7月23日，昭和60年8月2日，上記の通り変更せるものである。

帆船 日本丸



21世紀への挑戦

海、

廣大無辺な紺碧の広がり。生命の源。

それは計り知れないほどの恵みを、
私達に与えてくれます。

船、

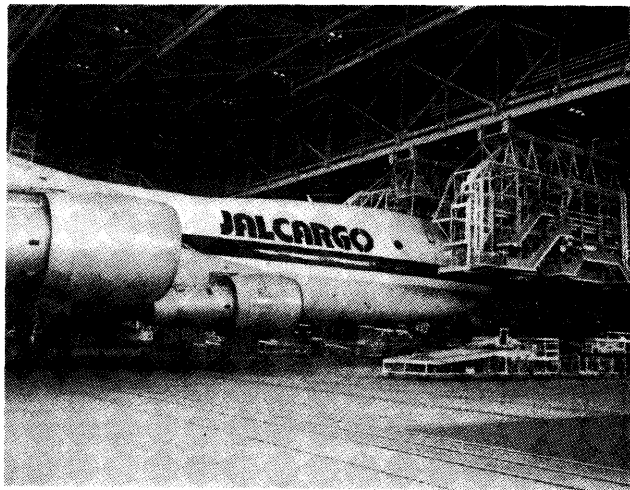
より遠く、より早く、より安全に。

それは太古の昔から大海原を
駆ける、大切な交通手段です。

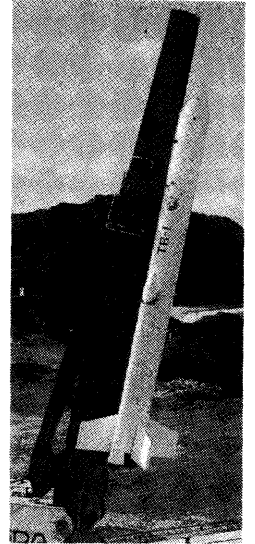
そして今、

時代とともに多様化してゆく
船はもとより、長大橋、
レジャー機器、宇宙航空分野、
リゾート開発…… と、
私達の目の前には
無限の可能性が広がっています。

航空機整備用ドック



ロケット発射装置



2人乗ジェットホーバー



21世紀に挑戦する住友重機械。

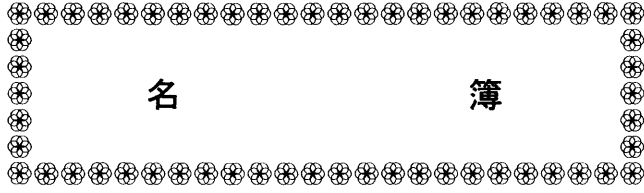
私達は、いつの時代でもフューチャー
クリエイターでありたい、そう考えています。



住友重機械工業株式会社

追 浜 造 船 所

神奈川県横須賀市夏島町19番地 電話 (0468) 61-1850 (ダイヤルイン)



名 簿

平成元年度役員

会 長	増 井 一 雄	(三重県立伊勢工業高等学校長)
事務局 長	景 山 裕 二	(三重県立伊勢工業高等学校)
理 事	三重県立伊勢工業高等学校	造船科教員
事 務 局	三重県立伊勢工業高等学校	
委 員		
(東 部)	田 村 孟	(岩手県立釜石工業高等学校)
(中 部)	上 田 民 平	(神戸市立神戸工業高等学校)
(西 部)	榎 武 俊	(山口県立下関中央工業高等学校)
監 事	川 村 卓	(徳島県立徳島東工業高等学校)
	荒 瀬 清 彦	(島根県立松江工業高等学校)
総会当番校		

昭和63年度役員

会 長	高 橋 章	(三重県立伊勢工業高等学校長)
事務局 長	景 山 裕 二	(三重県立伊勢工業高等学校)
理 事	三重県立伊勢工業高等学校	造船科教員
事 務 局	三重県立伊勢工業高等学校	
委 員		
(東 部)	田 村 孟	(岩手県立釜石工業高等学校)
(中 部)	上 田 民 平	(神戸市立神戸工業高等学校)
(西 部)	榎 武 俊	(山口県立下関中央工業高等学校)
監 事	川 村 卓	(徳島県立徳島東工業高等学校)
	神 田 黄 道	(島根県立松江工業高等学校)
総会当番校	昭和63年度徳島県立徳島東工業高等学校	

北海道小樽工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制											定 時 制					
学 科	造船	機械	工業 化学	電気	建築	電子	土木			計	機 電	機 械	電 気	建 築		計
定 員	120	240	120	120	120	120	120			960	160	40	40	160		400
在 籍	1年	40	80	40	40	40	40			320	35	—	—	18		53
	2年	40	81	39	41	39	40	39		319	24		—	7		31
	3年	39	77	39	40	40	41	39		315	15	0	0	9		24
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	5	8	10		23
	計	119	238	118	121	119	121	118		954	74	5	8	44		131

教育課程（平成元年入学生用）表

学科	国語		社会		数学			理科		保体		芸 外国語			普通 科目 計	工 業						工 業 科 目 計	教 科 外 活 動	合 計
	国 語 I	国 語 II	現 代 社 会	地 理 史	数 学 I	基 礎 解 析	微 分 ・ 積 分	理 科 I	体 育	保 健	美 術 I	英 語 I	英 語 II	工 業 基 礎		実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	選 択	工 業 科 目 計			
学 年 単 位 数	1	4	4		4			2		2	1	2	3	22	3	3	2					8	2	32
	2		2		2		3	4		2	1		2	16	4	4	2	4				14	2	32
	3		2			3		2		3			2	12	4	4		8	2			18	2	32
	計	8		9		9		6		9	2	7		50	3	8	11	4	12	2		40	6	96

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	酒井 武	(出身教科 電気)	047	小樽市松ヶ枝1-5-25	0134-22-4671
教頭	宮川 央章	(同上 土木)	〃	〃 最上1-30-2	〃 34-2304
科長	則友 進	工学, 実習, 工業基礎	〃	〃 緑3-10-34	〃 33-6674
教諭	井澤 仁志	工学, 実習, 工業基礎, 製図	〃	〃 松ヶ枝2-3-7	〃 32-3226
〃	中原 博幸	工学, 実習, 工業基礎	〃	〃 入船4-23-6	〃 23-4331
〃	神尾 正文	工学, 工教, 実習, 製図	〃	〃 新光5-34-17	〃 52-2794
実習 教諭	佐々木征治	工業基礎, 実習, 製図, 工学	048-26	〃 オタモイ3-7-19	〃 26-2075

岩手県立釜石工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制						
学 科	造船	機械	電気	電子	土木	工業 化学				計						計
定 員	120	120	120	120	120	120				960						
在 籍	1 年	33	33	35	40	34	41			320						
	2 年	30	37	37	39	39	36			319						
	3 年	21	40	38	39	36	36			315						
	4 年	/	/	/	/	/	/	/	/	/						
	計	84	110	110	118	109	113			644						

教育課程（平成元年入学生用）表

学 年	科 目	国 語		社 会		数 学		理 科		保 体		芸 術		外 国 語		普 通 科 目 計	工 業							工 業 科 目 計	教 科 外 活 動	合 計
		Ⅰ	Ⅱ	現 代 社 会	世 界 史	数 学 Ⅰ	数 学 Ⅱ	理 科 Ⅰ		体 育	保 健	美 術	英 語 Ⅰ		工 業 基 礎		実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	機 械 工 作	原 動 機				
単 位 数	1	4		2		5		3		2	1	2	3		22	3	2	2	2				9	2	33	
	2		2	2	2		3	2		2	1		3		18		4	2	3	2	3		13	2	33	
	3		2		2		3						2		12		6	2		6	2	3	19	2	33	
	計	8		8		11		5		9	2		8		51	3	10	6	5	10	5	3	42	6	99	

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	高橋 司男	(出身教科 社会)	026	釜石市平田町2-25-316	0193-26-5343
教頭	沼田 聰	(同上 建築)	〃	〃 大平町3-11-42	〃 22-2796
教諭 (科長)	田村 孟	実習, 工学	〃	〃 〃 3-11-35	〃 24-2580
教諭	菊地 健一	実習, 工基, 製図, 工学	〃	〃 甲子町10-81-4	〃 23-3878
〃	大畝 明	実習, 製図, 原動機, 工数	〃	上閉伊郡大槌町大町15-13	〃 42-3853
〃	坂川 章浩	実習, 工基, 工学, 工数	〃	釜石市大字平田町3-61-1	〃 26-6182
〃	杉山 元基	実習, 工基, 製図, 機械工作	〃	〃 大字平田2-8 くじやアパート	〃 26-5667
実習 助手	川畑 修	実習, 工基	〃	〃 大平町3-11-70	〃 24-2640
〃	山野目 弘	実習, 工基	027	宮古市大字津軽石1-99	〃 67-2836

神奈川県立横須賀工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制					
学 科	造船	機械	電気	化学 工学	電子	化学				計					計
定 員	41	250	250	82	84	168				875					
在 籍	1年	/	91	85	/	44 (1)	91 (11)			311 (12)					
	2年	/	76 (2)	87 (1)	/	37 (1)	84 (15)			284 (19)					
	3年	25	72	76	45 (10)	/	/			218 (10)					
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/					
	計	25	239 (2)	248 (1)	45 (10)	81 (2)	175 (26)			813 (41)					

教育課程（平成元年入学生用）表

教科	国語		社会		数 学		理 科		保体		芸 外国語		普 通 科 目 計	工 業						選 択 科 目 計	教 科 外 活 動	合 計			
	科目	国語 I	国語 II	現代社会	倫理	政治経済	数 学 I	数 学 II	理 科 I	体 育	保 健	音 楽 I		英 語 I	英 語 II	工業基礎	工業実習	工業製図	造船工学				情報技術 I	構造設計	工業科目計
学 年 単 位 数	1	4	3			5		2		2	1	2	4		23	3	2	2	1			8	2	33	
	2		2	3			4	4		2	1			3	19	3	3		4	2		12	2	33	
	3		3		2	2				3				2	12	4	3	5	2	1		15	4	2	33
	計	9		10			9		6		9	2		9	54	3	7	8	2	10	2	3	35	4	6

会 員 名 簿（電子機械・造船科）

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	宮本 信哉	（出身教科 機械）	238	横須賀市森崎4-15-11	0468-36-8775
教頭	桜井 寛	（ 同上 電気）	”	” 池田町1-11	” 34-0854
教諭 (科長)	藤田 倫也	造工, 実習	”	” 平作2-6-2	” 52-4715
教諭	岩瀬 律雄	情報, 実習	”	” 小矢部3-23-1	” 35-0426
”	菊地 信芳	電基, 実習	”	” 森崎4-28-6 エクセレントヨコスカ103号	” 33-0792
”	小川 忍	構設, 実習	255	中郡大磯町東町2-8-20	0463-61-2278
実習 助手	西村 功	実習, 製図	251	藤沢市本鶴沼1-1-22 早坂AP	0466-26-8754
”	唐原 克之	実習, 製図	239	横須賀市走水1-6-4	0468-41-8116
講師	小駒 義就	製図, 船設	238	” 西逸見町2-98	” 25-5571

三重県立伊勢工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制					
学 科	造船	機械	建築	電気	工業 化学					計					計
定 員	120	360	150	240	120					960					
在 籍	1年	41	120	40 (16)	79 (1)	40 (6)				319 (23)					
	2年	40	118	39 (15)	78 (1)	40 (2)				315 (18)					
	3年	38 (2)	117	39 (7)	78	39 (2)				311 (11)					
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/					
	計	118 (2)	355	118 (38)	235 (2)	119 (10)				945 (52)					

教育課程（平成元年入学生用）表

学 年	科 目	国 語		社 会		数 学			理 科		保 体		芸 芸		外 国 語		普 通 科 目 計	I. 業								工 業 科 目 計	特 別 活 動	合 計		
		国 語 I	国 語 II	現 代 社 会	地 理	世 界 史	数 学 I	基 礎 解 析	微 分 積 分	理 科 I	理 科 II	体 育	保 健	音 楽	英 語 I	英 語 II		工 業 基 礎	実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	電 気 基 礎	溶 接	機 械 工 作				情 報 技 術 I	
		1	4		2		4			4			2	1	2	3				22	3		2	3	2					
2		2	2	3			3		2		2	1		1	2		18	6	2	2	2		2				14	2	34	
3		2			3			3			3				2		13	6	2		5	2		2	2	19	2	34		
計	8		10		10			6			9	2		8		53	3	12	6	5	9	2	2	2	2	43	6	102		

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	増井 一雄	(出身教科 理科)	519-06	度会郡二見町三津388	05964-3-3201
教頭	畑 弘師	(同上 英語)	515-03	多気郡明和町有爾中1241-1	05965-2-5733
教諭 (科長)	石川 昌文	工数, 製図, 実習	518-04	名張市桔梗ヶ丘南3-1-85	05956-5-5015
教諭	景山 裕二	造工, 製図, 実習	516	伊勢市上野町3400	0596-39-0167
”	寺田 真二	溶接, 機械工作, 実習	”	” 一色町1560	” 24-2021
”	佐藤 明弘	工数, 電基, 情報技術, 実習	511	桑名市深谷町935-1	0594-29-3374
実習 助手	菊本 典夫	実習	516	伊勢市常磐3-8-21	0596-28-1877
”	市川 公	実習	”	” 大湊町1118-82	” 36-0913

神戸市立神戸工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制				
学 科	造船	機械	自動車	イン テリア					計					計
定 員	120	360	120	120					720					
在 籍	1年	40 (情機)	122	40	41				243					
	2年	39 (情機)	115	39	37				230					
	3年	32	107	32	37				208					
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/					
	計	111	344	111	115				681					

教育課程（平成元年入学生用）表 3年生のみ造船コース

教科 科目 学年	国語		社 会		数 学			理 科		保 体		芸 術		外 国 語		普 通 科 目 計	工 業							工 業 科 目 計	教 科 外 活 動	合 計	
	国 語 I	国 語 II	現 代 社 会	地 理 社 会	政 治 経 済	数 学 I	基 礎 解 析	微 分 ・ 積 分	理 科 I	体 育	保 健	美 術	英 語 I	英 語 II	英 語 III		工 業 基 礎	実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	電 子 技 術	情 報 技 術 I				計 測 制 御
1	4		2			4		2		3	1	2	3		21	3		2	2			2		2	11	2	34
2		2	2	3		3		2		3	1		2		18		4	2	2		2	2		2	14	2	34
3		2			2		2	2		2			2		12		6	4		6		2	2		20	2	34
計	8		9			9		6		10	2		7		51	3	10	8	4	6	2	6	2	4	45	6	102

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	池田 稔	(出身教科 数学)	652	神戸市兵庫区熊野町5-19-17	078-521-0727
教頭	山田 福松	(同上 数学)	651-11	“ 北区南五葉4-10-11	“ 592-0606
教諭 (科長)	上田 民平	工基, 実習, 製図, 造工, 機設	655	“ 垂水区小東山6-7-5	“ 792-2328
教諭	上野健治郎	工基, 実習, 製図	654-01	“ 須磨区妙法寺 字池ノ谷1-5	“ 741-3540
“	神 豊彦	実習, 製図, 造工, 工数	654	“ “ 関守町2-2-22	“ 734-6390
“	濱田 稔	工基, 製図, 実習, 造工, 工数	654-01	“ “ 西落合7-2-18	“ 791-9332
“	森松佳比古	工基, 製図, 実習, 計制, 情技	673	明石市藤江1625-1 シャルムシーサイド明石211	“ 923-0259
“	八田 久夫	実習, 情技, 機設, 電技	661	尼崎市武庫之荘3-10-12	06-432-6990

徳島県立徳島東工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制								定 時 制								
学 科	造船	インテリア	機械	電気	電子	情報技術										計
定 員	120	120	240	120	120	180										900
在 籍	1年	40	40	80	40	39	70									309
	2年	38	40	79	40	40	70									307
	3年	37	37	77	41	40	38									270
籍	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	計	115	117	236	121	119	178									886

教育課程（平成元年入学生用）表

教科	国語		社会		数 学		理 科		保体		芸 外国語		普 通 科 目 計	工 業								特 別 活 動	合 計			
	国 語 I	国 語 II	現 代 社 会	世 界 史	地 理	数 学 I	数 学 II	微 分 積 分	理 科	体 育	保 健	美 術		英 語 I	英 語 II	工 業 基 礎	造 船 実 習	造 船 製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	機 械 設 計			原 動 機	電 気 基 礎	情 報 技 術 I
学 年	1	4	2			5		3		2	1	2	3	22	3	2	2	3						10	2	34
	2	2	2		3	2		2		2	1		2	16	4	3	2	5					2	16	2	34
	3	2		3		2				3			3	13	6	4		3	2	2	2		2	19	2	34
	計	8		10		9		5		9	2		8	51	3	10	9	4	11	2	2	2	2	45	6	102

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	西村 榮之	(出身教科 社会)	779-32	名西郡石井町浦庄字上浦676	0886-74-0570
教頭	益田 宏一	(同上 電気)	771	板野郡北島町鯛浜字大西30-15	“ 98-5174
“	横田 潤三	(同上 社会)	772	鳴門市撫養町斎田字法端北63	“ 85-6261
教諭(科長)	川村 卓	実習, 製図, 工学, 電気基礎	770	徳島市南島田町4-42-15	“ 32-4239
教諭	武市 文雄	実習, 製図, 電気基礎, 工数, 工基	“	“ 北沖洲1-8-31	“ 64-2745
“	井内 亮一	実習, 製図, 工学, 工基	“	“ 論田町本浦下24-22	“ 63-1545
“	岩川 英司	実習, 製図, 機械設計, 情技 I	“	“ 大谷町新堤22-9	“ 69-0051
“	郡 季之	実習, 製図, 工学, 原動機, 工基	771-17	阿波郡阿波町南整理377-1	0883-35-3981
実習主任	桂 勝時	実習, 製図, 工基	770	徳島市津田町1-14-18	0886-62-3762
“	宮本 文禧	実習, 製図, 工基	“	“ 川内町鶴島361-1	“ 65-0260

高知県立須崎工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制					
学 科	造船	機械	化学 工業	電気					計						計
定 員	120	240	120	220					720						
在 籍	1年	41	81	42	84				248						
	2年	29	75	38	78				220						
	3年	32	79	28	68				207						
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/						
	計	102	235	108	230				675						

教育課程（平成元年入学生用）表

教科	国語		社会		数学		理科		保体		芸		外国語		普通 科目 計	工 業						工 業 科 目 計	教 科 外 活 動	合 計	
	国 語	国 語	現 代 社 会	地 理 史	数 学	数 学	理 科	理 科	体 育	保 健	美 術	英 語	英 語	工 業 基 礎		造 船 実 習	造 船 製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	機 械 設 計					
学 年 単 位 数	1	4	4		4		4		2	1			3		22	3		3	2	2			10	2	34
	2		3	3		3			3	1	2	3		18		3	3	2	4	2			14	2	34
	3		2		4	3			3				2	14		5	5		6	2			18	2	34
	計	9		11		10		4		10	2		8		54	3	8	11	4	12	4			42	6

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	森岡 清	(出身教科 電気)	785	須崎市多ノ郷甲1139-150	0889-42-2496
教頭	森 峯雄	(同上 英語)	789-14	佐川町中組182-2	“ 22-2341
教諭	山崎 吉広	実習, 工基, 工学	785	須崎市東糺町5-15	“ 42-2767
“	津野 隆	実習, 工基, 工学	“	“ 多ノ郷甲1139-150	“ 42-5203
“	古谷 恭啓	実習, 工基, 工学, 工数	“	“ 緑町6-33	“ 42-0443
“	小松 茂久	実習, 工基, 工学, 製図, 工数	“	“ 妙見町11-34	“ 43-1451
“	矢野 修一	実習, 工基, 工学, 製図, 機械設計	780	高知市西秦泉寺町252-12	0888-24-2186
実習 助手	西山 庸一	実習, 工基	785	須崎市多ノ郷甲1139-150	0889-43-1223

島根県立松江工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制											定 時 制				
学 科	造船	土木	建築	機械	電気	電子	工業 化学			計	建築	機械	電気	普通	計
定 員	120	120	120	240	240	240	240			1320	160	160	160	160	640
在 籍	1年	26	39	41	77	81	80	55		399	9	10	8	16	43
	2年	34	38	32	79	62	75	77		397	6	13	5	10	34
	3年	27	34	34	66	61	72	68		362	6	5	11	9	31
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/	6	10	10	7	33
	計	89	111	107	222	204	227	200		1158	27	38	34	42	141

教育課程（平成元年入学生用）表 元年入学生は来年度以降（2年，3年次）変更予定である。（工業科目のみ）

学科	国語		社会		数 学		理 科		保体		芸 外国語			普通 科目 計	工 業						工業 科目 計	教科 外 活動	合 計
	国 語	国 語	現 代 社 会	地 理 史	数 学	数 学	理 化 科	理 学	体 育	保 健	音 楽	英 語	英 語		工 業 基 礎	実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	電 気 基 礎			
	Ⅰ	Ⅱ			Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ										
単 位 数	1	4	2		4		4		2	1	2	3		22	3	3	2	2			10	2	34
	2	2	2	2		3		2	2	1			3	17	3	4	2	6			15	2	34
	3	3			3	2			3				2	13	5	5		7	2		19	2	34
	計	9		9		9		6	9		2	8		52	3	8	12	4	15	2	44	6	102

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	高橋 肇	(出身教科 英語)	690	松江市法吉町892-9	0852-23-0904
教頭	三原 治夫	(同上 数学)	699-08	簸川郡湖陵町大池747-3	0853-43-0245
教諭	植田 恵孝	実習，工数，工学	690	松江市乃白町258-13	0852-31-6191
”	小村 孝志	実習，製図，工基，工数，工学	”	” 上乃木町1858	” 31-8426
教諭 (科長)	荒瀬 清彦	実習，製図，工学	693	出雲市大津新崎町4-47-10	0853-23-1778
実習 助手	小藤 包	実習，工基	690	松江市山代町702 教職員宿舎230号	0852-25-1897

広島県立木江工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制			
学 科	造船	機械							計				計
定 員	(240名 くくり募集)												
在 籍	1年	21	44							65			
	2年	15	39							54			
	3年	17	45							62			
籍	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
	計	53	128							181			

教育課程（平成元年入学生用）表

教科 科目	国語		社 会		数 学		理 科		保 体		芸 外 国 語		普 通 科 目 計	工 業								工 業 科 目 計	教 科 外 活 動	合 計	
	国 語 I	国 語 II	現 代 社 会	地 理	数 学 I	数 学 II	理 物 科	理 理	体 育	保 健	美 術・書 道	英 語 I		英 語 II	工 業 基 礎	実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	機 械 設 計	電 子 基 礎				情 報 技 術 I
学 年 単 位 数	1	4	2		4		2		3	1	2	3	21	3	2	2	3						10	3	34
	2		2	2	2		2		2	1		3	16		3	3	2	3	2	2			15	3	34
	3		2	2		2		3		2		2	13		5	2		5	2		2	2	18	3	34
	計	8		8		8		7		9	2	8	50	3	8	7	4	11	4	2	2	2	43	9	

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	原田 高明	(出身教科 工業)	725-04	豊田郡木江町沖浦1985-2	08466-2-0126
教頭	幸元 一隆	(同上 社会)	〃	〃 〃 木江99-1	〃 2-0376
教諭	実近 芳郎	実習, 造工	725-03	〃 大崎町中野5887-1	〃 4-2781
〃	中村 秀樹	実習, 工基, 造工, 機械設計	725-02	〃 東野町味原5286-2	〃 5-2779
〃	竹内 敏幸	実習, 工基, 製図, 造工, 工数	725-04	〃 木江町木江99-1	〃 2-1453
〃	瀧口三千弘	実習, 電子基礎, 情報技術 I	〃	〃 〃 5010-2	〃 2-1554
実習 助手	長岡 武男	実習, 工基, 製図, 造工	725-02	〃 東野町5327	〃 5-3191
〃	中土井昭司	実習, 工基, 製図, 造工	725-04	〃 木江町明石2318	〃 3-0248

山口県立下関中央工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

全 日 制										定 時 制					
学 科	造船	機械	建築	土木	化学 工業	イン テリア				計					計
定 員	120	240	120	120	120	120				840					
在 籍	1年	40	80	40	40	40				280					
	2年	39	77	37	38	37				266					
	3年	33	78	37	40	39	37 (3)			264 (3)					
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	/					
	計	112	235	114	118	116	115 (3)			810 (3)					

教育課程（平成元年入学生用）表

学 年	科 目	国 語		社 会		数 学		理 科		保 体		芸 術		外 国 語		普 通 科 目 計	I. 工 業							工 業 科 外 活 動 計	合 計	
		国 語 I	国 語 II	現 代 社 会	世 界 史	数 学 I	数 学 II	理 物 科 I	理 科 II	体 育	保 健	美 術	英 語 I	英 語 II	工 業 基 礎		実 習	製 図	工 業 数 理	造 船 工 学	電 気 基 礎	情 報 技 術 I	機 械 設 計			工 業 科 目 計
		1	4	2		4		4		2	1	2	3				22	3	3	2	2					
2		2	2			3		3		2	1			3	16	3	3	2	4	2	2		16	2	34	
3		2		4		3				3				2	14	6	3	5	2		2		18	2	34	
計	8		8		10		7	9	2	8				52	3	9	9	4	11	2	2	4	44	6	102	

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	阿部 隆郎	(出身教科 電気)	751	下関市幡生本町33-4	0832-22-4864
教頭	利根川貞夫	(同上 電気)	"	" " 23-10 グリーンハイム	" 52-8805
教諭 (科長)	榎 武俊	実習, 工基, 工学, 製図	"	" 勝谷新町3-5-20	" 56-9281
教諭	高槻 雄一	実習, 工基	"	" 丸山町4-4-3	" 32-0048
"	武田 種雄	実習, 工数, 製図, 工学	"	" 上田中町5-14-3	" 33-0094
"	宮崎 明宏	実習, 情報, 工数, 工学	"	" 綾羅木本町1-5-2-536	" 53-7496
"	松田 壮司	実習, 工基, 製図, 工学	"	" " 3-4-28 美園ハウス102	" 54-3943
実習 助手	橋本 博之	実習, 工基	759-63	豊浦郡豊浦町川棚4075-2	08377-4-2739

長崎県立長崎工業高等学校

設置学科及び定員・在籍数

学年	科目	国語		社会		数学		理科		保健体育		芸術		外国語		普通 科目 計	工業						工業 科目 計	教科 外活 動	合 計	
		I	II	現代 社会	世界 史	政治・ 経済	数 学 I	数 学 II	微分・ 積分	理 科 I	物 理	体 育	保 健	美 術	英 語 I		英 語 II	工業 基礎	実 習	製 図	工業 数理	造船 工学				機 械 工作
1		3		4		4		3		2	1	2	3		22	3	3	2	2					10	2	34
2		2		3		3		3		2	1		3		17		4	3	2	4			2	15	2	34
3			3		2		3			2	1			3	14		4	3		7	2	2		18	2	34
計		8		9		10		6		9	2		9		53	3	8	9	4	13	4	2	2	43	6	102

教育課程（平成元年入学生用）表

全 日 制										定 時 制				
学 科	造船	機械	電気	工業 化学	建築	イン テリア	電子 工学	情報 技術	計	機械	電気	建築	計	
定 員	40	80	40	40	40	40	40	40	360	40	40	40		
在 籍	1年	39	82	41 (4)	41 (4)	40 (27)	41 (1)	40	364 (42)	28	19	17	64	
	2年	37	77	40 (1)	39 (4)	42 (2)	40 (1)	40 (5)	355 (37)	23	16	14	53	
	3年	38	78	40	38 (1)	39 (1)	40 (1)	39 (6)	352 (29)	20	18	15	53	
	4年	/	/	/	/	/	/	/	/	18	18	14	50	
計	114	237	121 (1)	118 (9)	121 (7)	120 (71)	120 (3)	120 (17)	1071 (108)	89	71	60	220	

会 員 名 簿

職名	氏 名	担 当 科 目	〒	住 所	T E L
校長	坂田 正義	(出身教科 電子)	852	長崎市葉山町243-19	0958-56-9130
教頭	山口 隆也	(同上 機械)	”	” 富士見町13-7	” 61-8611
教諭 (科長)	三島 康男	実習, 工数, 工学, 製図	”	” 昭和町958	” 44-4616
教諭	三浦 弘	実習, 工基, 工学, 製図	”	” 滑石3-34-12	” 56-4464
”	富永 雅生	実習, 工学, 製図	851	” ” 3-37-37	” 57-6046
”	瀬戸口達志	実習, 工数, 電基, 工学	851-01	” 鳴見台1-48-2	” 50-3481
”	野崎慎一郎	工学, 実習, 製図, 設計	852	” 住吉町5-2	” 44-0831
実習 助手	芦塚 弘道	実習, 工基, 製図	850	” 小ヶ倉町3-450-22	” 78-6616

造船図書案内

●解説付図書目録進呈
(定価は消費税込。)

造船工学 全国造船教育研究会編

船に関する一般的なことから、船舶の建造過程に応じ船の構造と設備、船の理論と設計、船の建造・修理と改造など、造船全般の必要な知識のすべてを詳細に解説したもので、学生・現場技術者向の絶好のテキスト。B5・5,665円(〒310円)

商船設計 全国造船教育研究会編

船舶設計に必要な造船学をはじめ、材料・機械の知識を解説したもので、商船設計の基礎知識の理解に役立つ好著。A5・1,442円(〒260円)

船舶工作 全国造船教育研究会編

造船材料、現図、各種工事、検査・試験など船舶工作の実際がわかる。A5・2,266円(〒260円)

造船用語辞典 山口増人著

造船・造機・設計関係用語約8,000語を英和・和英と図面により解説。B6・3,296円(〒260円)

改訂 船体各部名称図

池田 勝著 / 各種船舶の船体各部名称、船体構造名称、船体艤装名称が立体的作図の絵と英和名称によりすぐ覚えられる。B5・3,300円(〒310円)

船舶設備関係法令

運輸省海上技術安全局監修 価2,575円(〒260円)

船舶設備関係法令の解説

運輸省海上技術安全局監修 価3,605円(〒260円)

1983年 海上人命安全条約

—1974年海上人命安全条約の1983年改正—
'74 SOLAS第二次改正。 正訳(英和对訳)
運輸省海上技術安全局監修 価12,360円(〒360円)

造船設計便覧 関西造船協会編

【最新のルール、資料により全面改訂した】

〈第4版〉 一般・材料・基本計画・船殻・艤装・海洋、港湾その他と6章にわけ、造船設計に関する最新の理論とデータを集大成したわが国最高の造船設計指針。 A5・25,750円(〒410円)

船体構造力学 寺沢一雄監修

船体構造要素を対象とした基礎的問題の強度解析から船体構造解析、マトリックス有限要素法まで最近の研究成果をもとに解説した基本図書。 A5・20,600円(〒410円)

理論船舶工学 大串雅信著

広範囲にわたる造船学の諸理論をわかりやすく解説した船舶工学の決定版。(B5・千各310円)
上巻・算法・復原力・進水・積量測度 5,150円
中巻・トロコイド波理論・強度・振動 5,150円
下巻・船体動揺・抵抗・推進・旋回 4,326円

船舶・海洋技術者のための

不規則現象論 山内保文監修

菅井/高石/安藤/平野/大津/小林/織田共著
海洋における船舶や海洋開発用の各種構造物の性能に関する基本的な方法——不規則変動現象の見方・解析の理論・それらの設計や運用に対する適用法の知識——のガイダンスとなることを意図した技術書です。 A5・4,944円(〒310円)

海洋汚染防止条約 (英和对訳)

運輸省運輸政策局環境課監修 8,755円(〒310円)
MARPOL73/78条約本文につき、84改正、85改正を取りこみ、P&A基準の最終決議収録。

池田 勝著 ▶ 小型船造船業法による主任技術者の唯一の設計参考書。(〒310円)

高速艇の設計と製図 A5・17,510円

小型船の設計と製図 A5・15,450円

小型船設計図集 B5・5,150円

12m以上、699トンまでの小型船を対象とした設計と製図に関する詳細な実務書。小型船舶安全規則の施行に伴った解説書で、著者設計による各種小型船、高速艇がとりあげられている。

船舶電気・電子工学便覧

日本船用機関学会 編

A5・1050頁 22,660円(〒410円)

船舶電気艤装ハンドブック

日本造船学会艤装研究委員会 編

A5・900頁 25,750円(〒410円)

海文堂出版株式会社

112 東京都文京区水道2-5-4 ☎(03)815-3292

編 集 後 記

神戸工業高校より事務局を引き継ぎ早くも一年近くになります。要領を得ないと、仕事ののろさが相まって、全てが後手後手にまわり関係諸機関、諸先生方には大変ご迷惑をおかけしました。ご容赦下さい。この一年間、事務局を守ってこられた先生方のご苦勞を身にしみて感じたのと同時に責任の重さを改めて知った次第です。

お忙しい中、寄稿下さった先生方、広告を掲載下さった各々の企業のご協力に深く感謝いたします。

事務局 景 山 裕 二

会 誌 第 25 号

平成元年 8 月 1 日 印刷発行

全国造船教育研究会会長 増 井 一 雄

伊勢市神久 2 丁目 7-18

三重県立伊勢工業高等学校 内

(〒 516) 電話 0596-23-2234(代)

(非売品) (200)